

平成 27 年 5 月 27 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520243

研究課題名(和文) 中国における日本漢文の受容

研究課題名(英文) The Japanese Han-prose in China

研究代表者

蔡毅(CAI, Yi)

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号：50263504

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は日中文化交流の「逆輸入」という特別な視点から、従来ほとんど顧みられることがなかった日本漢文の中国本土へのフィードバックの状況を全面的に検討した。唐代から清末までの中国の典籍に著録されている多くの日本漢文作品を確認し、その時代背景と作者の経歴、作品成立の経緯および中国での反響等を考察することによって、日本文化の世界に向けての発信の歴史ないし東アジア漢字文化圏における文学往還の事象を、新たな角度から照らし出すことができ、日中文化交流史研究の新しいページが開かれたと言える。

研究成果の概要(英文)：From a viewpoint of “reverse import” of Japan-Sino cultural exchange, this paper studies the cases of Japanese Han-prose reverting to China, which, in the past, had been largely ignored. Based on a large number of Japanese Han-prose found in the classic literatures ranging from Tang to Qing Dynasties, this paper analyzes the historical background, the experiences of the authors, how the poems were written, as well as the impact to China. Through this study, we may find a new angle of viewing the history of how Japanese culture had influenced the world and, in particular, how cultural exchange took place in the Han-literature countries in East Asia.

研究分野：文学

キーワード：日本漢文 逆輸入 中国本土 日中文化交流 東アジア漢字文化圏 域外漢籍

## 1. 研究開始当初の背景

日中文化交流史の研究において、近年一つの新しい動向がみられる。日本文化の中国へのいわゆる「逆輸入」に対する関心である。明治維新まで二千年にもわたる日中間の文化交流では、中国が一方向的に日本に影響を与えたことは周知の通りだが、逆にその間に日本文化がある程度中国に伝わっていったことも事実である。1990年代に日中の学者が共同編纂し、両国で同時に出版された『日中文化交流史叢書』(大修館書店と浙江人民出版社、全10巻、1996年)は両国の長い文化交流を全体として把握することに努めた大規模なシリーズであり、このテーマに関する研究はこの十数年間着実に進んでいるのである。

しかし、こうした研究では、日本文化の重要な構成要素であった日本漢文学の中国への流伝については、ほとんど取り扱われていない。研究代表者はかつて科研費基盤研究(C)2009~2011、「中国における日本漢詩の受容」課題番号21520214で、唐代から清代までの日本漢詩の中国への流布について全面的な検討をおこなった。それをきっかけにして、さらに日本漢文へと視野を広げ、「中国における日本漢文の受容」というテーマに取り組み、漢詩・漢文両方を含むより広範囲な日本漢文学の中国への伝播に関する全体像を究明しようと考えた。それが本課題を申請した所以である。

## 2. 研究の目的

本研究によって、日中文化交流史において従来ほとんど顧みられることがなかった新しい一ページが開かれ、研究の空白を埋めるに違いなく、東アジア漢字文化圏全体に対する視座を大きく変えることもできるのではないかと考える。漢文という純粋な中国文学のジャンルにさえ相互交流の事実があったことは、日本文化の世界に対する発信の歴史を新たな角度から照らし出すことになるの

である。一方、中国文学のほうも、これまで安易に考えられていたような閉鎖的、自足的なものではなく、開放性・包容性を孕んだ様相が明らかになり、さらに広い視野で再検討すべきものであると考えられる。

## 3. 研究の方法

### (1) 文献資料の精査。

本研究は基本的には実証的な手法で行われた。日本漢文の中国への流伝はこれまでの研究では実績がほとんどなかったため、テーマを立てその目的に向かって基本文献から網羅的に精査する必要がある、広い範囲で綿密な調査を行った。日中両国の膨大な文献を扱うことは容易な作業ではないが、近年の検索用ソフトを活用することによって、可能な限りの関係資料を得るべく努力した。

### (2) 現地調査。

歴史上、中国に足を踏み入れた日本文人の作品は書物に見えるもの以外にも、題辞や石碑などのかたちで保存されているものがある。杭州の西湖などの名勝地に、かつていわゆる禹域を周遊した日本文人の痕跡が残っているため、現地に赴いて調査し、文献資料の欠を補った。

### (3) 海外研究者との協力。

最近、東アジア研究には新たな大きな動きがみられる。従来、中国、日本、あるいは交流としてもせいぜい日中比較といった限定的・個別的に行われてきた研究が、東アジア全体を視野に入れることによって、個々に見えていたのではわからなかった事象が見えてきたのである。そうした動向の先頭を走っているのが南京大学の張伯偉教授、上海師範大学の曹旭教授をはじめとする中国大陸・台湾・香港の学者たちであり、研究代表者は常々こうしためざましく活躍している日中文化交流史の研究者と交流し、緊密に連携しており、本研究においても彼らから情報と資料提供を受けている。

#### (4) 学会における研究成果公表。

段階的な成果を得た時点で、積極的に国内および国際学会で発表し、それによってこのテーマについての関心を広め、且つ関係分野の学者から教示を得た。

#### 4. 研究成果

上記の研究方法によって唐代から清代末期までの典籍に散在する日本漢文作品を集め、それらを時代順に検討した結果、中国における日本漢文の受容状況は大体確認できた。以下が各時代の概要である。

唐代：空海をはじめとする遣唐使たちの在唐漢文作品。

宋代、元代：日中文化交流中の日本漢文に関する資料が乏しいため、発見は少なかった。

明代：倭寇問題によって日本への関心が高まったため、日本漢文についての文献記録も豊富で、多数の作品が見つかった。

清代：特に明治期にあたる清末は、日中の文人が直接に交流できた時期である。頼山陽の『日本外史』をはじめ、多くの日本人の漢文作品が中国人に親しまれ、日本漢文の中国への流布はピークに達した。

これらの作品をめぐって、時代の背景、作者の入華経歴、作品成立の経緯などの歴史事実を究明した上で、日中文化交流史における各作品の歴史的な位置付けを綿密に分析し、その様相を解明した。結論として、歴史上の日本文人たちは中国古典文学の影響を受けただけでなく、積極的に中国へ発信しようという姿勢が見受けられ、且つ中国の文人から一定の評価をも得て、自主的に活動していた存在であったことが判明できた。

今後の展望として、上記の成果を踏まえ、特に日本漢詩については明治期の「文明開化新詩」が中国清末の「詩界革命」に与えた影響を、日本漢文については竹添井井の『棧雲峡雨日記並詩草』をはじめとする明治期日本文人の中国旅行記が彼方で受けた評価等な

どを検討し、日本漢文学が中国に伝わった様相を全面的に究明した上で、一連の研究成果を整理し、『中国における日本漢文学の受容』という著書にまとめる予定である。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

蔡毅、「頼山陽『日本外史』中国流布考」、『域外漢籍研究集刊』査読有、第12輯、2015年内刊行予定

蔡毅、「入明日僧筆下の雲南風情」、『日語学習与研究』、査読有、2015年第3号刊行予定

蔡毅、「蘇軾嶺南流寓詩的異国別解 以日本漢籍『四河入海』為例」、『流寓文化研究』、査読有、第1号、2015年内刊行予定

蔡毅、「日本漢詩西伝拳隅 以『楊文公談苑』為例」、『冽上古典研究』、査読有、第38号、2013、pp. 401-411

蔡毅、「唐人所見日本漢文考」、『唐代文学研究』、査読有、第17号、2013、pp. 171-183

蔡毅、「日本填詞西伝考」、『國際中国文学研究叢刊』、査読有、第2号、2012、pp. 244-255

〔学会発表〕(計8件)

蔡毅、「蘇軾嶺南流寓詩的異国別解 以日本漢籍『四河入海』為例」、「蘇東坡的流寓人生與文学暨雷州半島流寓文人研究」國際學術會議、2014年11月1日、広東海洋大学(中国湛江市)

蔡毅、「頼山陽『日本外史』与東亜文献交流」、「中国古文献研究」第2回国際會議、2014年10月28日、浙江工商大学(中国杭州市)

蔡毅、「入明日僧筆下の雲南風情」、「地域文学与民族風情」國際學術研討会、2014年8月29日、貴州民族大学(中国貴陽市)

蔡毅、「頼山陽『日本外史』中国流布考」、中国古代文学理論学会第19回年会暨國際學術研討会、2014年8月9日、湖北民族学院(中

国恩施市)

蔡毅、「『詩界革命』起源新探」、中国韻文学会第7回国際學術研討会、2013年11月9日、蘇州大学(中国蘇州市)

蔡毅、「日本漢詩西伝拳隅 以『楊文公談苑』為例」、東方詩話学会第8回国際學術研討会、2013年10月25日、四川師範大学(中国成都市)

蔡毅、「李長栄『海東唱酬集』再考」、清  
代文学国際學術研討会、2012年9月10日、  
安徽大学(中国合肥市)

蔡毅、「唐人所見日本漢文考」、唐代文学  
学会第18回国際學術研討会、2012年8月19  
日、新疆師範大学(中国ウルムチ市)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

蔡 毅 (CAI, Yi)

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号：50263504